

日 時
授業場

児 童 1 年 生
授 業 者

1. 単元名

すきなところを見つけよう 「たぬきの糸車」

2. 単元の目標

- (1) 身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使っていると同時に、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。
- (2) 内容の大体を捉え、場面の様子に着目して、たぬきやおかみさんなどの登場人物の行動を具体的に想像することができる。
- (3) 進んで、学習の見通しをもって内容や感想を「たぬきの糸車大好きカード」にまとめようとする。

3. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア 身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使っていると同時に、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。	ア 場面の様子やたぬきやおかみさん等の登場人物の行動など、内容の大体を捉えようとしている。(イ) イ 場面の様子に着目して、たぬきやおかみさん等の登場人物の行動を具体的に想像しようとしている。(エ)	ア 進んで、学習の見通しをもって内容や感想を「たぬきの糸車大好きカード」にまとめようとしている。

4. 単元のデザイン (全8時間)

次	○学習活動 ・ 学習内容	手立て	評価の観点		
			知	思	態
1	○これまで読書してきた昔話を想起し、自分の好きとその理由を交流する。 ○教師の「たぬきの糸車大好きカード」のモデルを見ることを通して、単元の見通しをもち、学びの必要感をもつ。	●様々な昔話を読むことができるように「昔話読書コーナー」を設置する。 ●教師のモデルを提示することで、単元の見通しをもち、学びの意味や意義の納得が図られるようにする。			ア
	○「たぬきの糸車」を通読し、内容の大体を捉える。	●挿絵を提示し、本文と挿絵をつなげながら読むことができるようにする。	ア	ア	
	○きこりが住んでいる山奥の様子と、たぬきがいらずらをしている様子について考える。	●物語の設定(時・場所・人物等)について考えることができるようにする。	ア	イ	
2	○おかみさんを見ながら、糸車を回すまねをするたぬきの様子について考える。	●おかみさんとたぬきの関係性について考えることができるようにする。	ア	イ	
	○震にかかり、おかみさんに助けてもらったたぬきの様子について考える。	●震にかかった様子や助けてもらったたぬきのおかみさんへの思いを想像させたり、おかみさんがたぬきを逃がした理由を考えたりすることができるようにする。		イ	
	○たぬきが糸車を回し、踊りながら帰っていく様子について考える。【本時】	●たぬきが糸を紡いだ理由を話し合う活動を通して、「糸を紡ぐ」たぬきの行動の変化に着目し、場面の様子について想像を広げながら読むことができる。		イ	
3	○たぬきの糸車の大好きな場面とその理由を、「たぬきの糸車大好きカード」にまとめ、附小ギャラリーに展示することを見通す。	●今までの学習を生かし、自分なりの解釈を整理させる。		イ	ア
	○たぬきの糸車の大好きな場面とその理由を記述した「たぬきの糸車大好きカード」を交流する。	●学習に対する有用感や成就感を味わわせるために、自他の解釈の違いから相手の考えのよさを伝え合う相互評価をさせたり、自分の考えを自己評価させたりする。		イ	ア

5. 本時の展開 (6/8)

(1) 本時の目標

たぬきが糸を紡いだ理由を話し合う活動を通して、「糸を紡ぐ」たぬきの行動の変化に着目し、場面の様子について想像を広げながら読むことができる。

(2) 本時の展開

学習活動	児童・生徒の姿	手立て	【評価の観点】
教師の働きかけ (○発問, △補助発問, □指示・説明)			◇評価の内容 ・指導上の留意点
1. お話の好きなお話とその理由は見つかりましたか？ I	<ul style="list-style-type: none"> ・お話の好きなお話は、決まってきたけど、理由のところはまだ話せないな。 ・私は、たぬきがたくさんの糸を紡いだところがお気に入りだよ。糸が山のようにすごいわね。 ・ぼくは、たぬきがびよんびよこ踊りながら帰ったところが面白かったからお気に入りだよ。 		<ul style="list-style-type: none"> ・「お話の好きなお話とその理由」を整理していくという見直しをもたせる。
たぬきがいとをつむいだりゆうをかんがえ、ばめんのようすについてそうそうをひろげながらよもう。			<ul style="list-style-type: none"> ・「キーカラカラ キークルクル」や「山のように」などの言葉に着目して、たぬきが糸をつむぐ様子を想像し、たぬきの行動の理由について想像したことを説明することができるようにする。
2. たぬきの行動について考える。			<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて、「見つかったら、大変ではないですか？ わなにかかったのに、糸を紡ぎますか？」 「お礼を言いたいなら（糸をつむいでおくよなど）直接言えばいいのではないですか」等の問い返しを行う。 II
○たぬきはわなにかかっていた、怖い思いをしたにもかかわらず、どうしてまた山小屋に来て糸を紡いだのでしょうか。 III	<ul style="list-style-type: none"> ・糸車を回したかったからだと思う。「キーカラカラ キークルクル」と糸車を回すまねをしていたし、毎晩毎晩やってくるぐらい好きだったのだと思うよ。 ・おかみさんのまねをして、楽しめたかったのではないかな。「おかみさんがしていたとおりに」と書いてあるよ。 ・おかみさんに助けてもらった恩返しをしたかったと思う。前の場面では、わなにかかっていたたぬきを、おかみさんが助けてくれたよ。 ・きっと「おかみさん、よろこんでくれるかな。」と思いながら、糸を紡いだと思う。 ・だから、山のように糸を紡いだと思うな。 ・「山のように」とあるけれど、どれくらいの量なのかな。 ・私の身長よりもっと高いかもしれないね。 ・でも、どうして、そんなにたくさんの糸をつむぐことができたのかな。 ・おかみさんたちは、冬から春の間、村へ下りていったでしょ。だから、3ヶ月くらい時間があつたから、それだけたくさんつむいだと思うな。 ・おかみさんが糸をつむぐ様子を見て、真似をしていたから、おかみさんのように上手に紡ぐことができたのだと思うな。 ・そして、たぬきはうれしくてたまらなかつたんだよね。びよんびよこおどりながらとつながるね。 		<ul style="list-style-type: none"> ・「うれしくてたまらない」という言葉に着目して、恩返しをしたことをおかみさんに気付いてもらえたことへの喜びに気付く、たぬきが踊りながら帰った理由を想像することができるようにする。
○どうして、たぬきはびよんびよこ踊りながら帰ったのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・たぬきは、糸を巻きたかっただけではないと思うよ。 ・「おかみさんがしていたとおりに」「糸を紡ぐ」と書いてあるね。糸を紡ぐとは、糸をつくることだよ。だから、いたずらができたからではなく、役に立てうれしかったと思うよ。 ・そうそう、おかみさんに助けてもらったからお礼ができてうれしかったのだよね。 ・前に学習した場面では、毎晩毎晩糸車を回す真似をしていたことがあったよね。 ・うんうん。自分も回せてうれしかったし、おかみさんにもよろこんでもらえたしね。 ・おかみさんに助けてもらったお返しに、冬におかみさんがしていた通りにしてたくさんの糸を紡いで、役に立とうとしていたからだよ。 ・そうそう、おかみさんがいなかったら、異にかかっていたときに、たぬきじるにされていたかもしれないから、何とかおかみさんに恩返しをしたかったと思うよ。 ・おかみさんに、恩返ししたことを気付いてもらえたからだよ。 ・確かに、役に立ちたい気持ちや恩返しをしたい気持ちがあるんだろうね。 ・そういえば、ぼくはよいことをして褒められたときに、「うれしくてたまらない」という気持ちになるよ。たぬきにも、そんな気持ちがあったのだと思う。 ・「うれしい」は、相手がいるときに使う言葉なのだね。おかみさんにたぬきが恩返しをしたことに気付いてもらえたから、たぬきはうれしくて、びよんびよこ踊りながら帰っていったのだね。 		<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて、「おかみさんに見つかったのに、びよんびよこっておかしくないですか」「みんなは、どんなときに『うれしくてたまらない』という気持ちになるかな」「みんなと同じようなことがたぬきにもあったのかな」「冬から春の間、毎日たぬきはびよんびよこ踊りながら帰っていったのかな」等の問い返しを行う。
3. 本時のふり返しをする。			◇【思・判・表】
○学習したことを基に、「お話の好きなお話とその理由」をノートに書きましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・全体を通して考えると、いたずらしたたぬきをこらしめてやりたいと思っていたおかみさんが、糸車を回すまねをしたり、上手な手つきで糸を紡いだりするたぬきを見ることによって、たぬきの恩返しに感心していたね。そして、たぬきが最後の場面では、おかみさんに分かちてもらえて、びよんびよこ踊りながらうれしそうに帰って行った場面を「たぬきの糸車大好きカード」にまとめたいな。 ・おかみさんに助けてもらったお返しに、冬におかみさんがしていた通りにしてたくさんの糸を紡いで、役に立とうとしていたところが大好きなので、たぬきが糸を紡いで「恩返し」をしているところを「たぬきの糸車大好きカード」にまとめたいな。 ・たぬきは、自分のことを助けてくれたおかみさんが好きになったので、おかみさんのように糸を紡いだところを「たぬきの糸車大好きカード」にまとめたいな。 		<ul style="list-style-type: none"> ・たぬきが糸を紡いだ理由を話し合う活動を通して、「糸を紡ぐ」たぬきの行動の変化に着目し、場面の様子について想像を広げながら読むことができる。

■国語科におけるリーダーシップ・フォロワーシップの育成について

国語科におけるLs/Fs 育成のポイントは「コミュニケーション力」

<国語科で目指す子供の姿>

国語科の教科目標では、社会生活に生きる資質・能力と、言葉がもつ価値や言語感覚に関する資質・能力の育成を謳っている。すなわち、単元ごとのねらいとする指導事項を達成するためには、日常生活や社会生活と効果的に関わらせた言語活動と、課題に取り組む中で言葉の特質に着目する学習が不可欠である。

そして、各領域の学習を通して言語感覚を豊かにしたり、言語能力を向上させたりする際には、生徒相互の関わり合い（コミュニケーション）が生まれる。学習指導要領解説にも、思考力や想像力は「認識力や判断力などと密接に関わりながら、新たな発想や思考を創造する」とある。国語科の授業展開において言葉の認識や判断を磨くために、個の生徒の活動終始することは考えられない。教材との対話から始まる学習であっても、その認識や判断の是非等は、自分と同じものを他者がどのように捉えたかによって一般化を追究していくからである。

従って、生徒に国語科授業の中で発揮させ、育む「コミュニケーション力」とは、**学習課題やそれに伴う「言葉」について、自己の認識や判断をもとに、思いや考えを他者と共有する力**であると捉える。

国語科における「目指す子供の姿」を実現するための手立て

- ① 日常生活や社会生活と結びつけ、「解決したい」「現段階では考えが不十分だ」といった学びの必要性を生み出す課題設定
- ② 自他や他者同士における「言葉による見方・考え方」の比較や統合を促す発問・問い返し・指示（条件提示）

（1）日常生活や社会生活と結びつけ、「解決したい」「現段階では考えが不十分だ」といった学びの必要性を生み出す課題設定～Ⅰ

単元導入時には、領域の特性や教材の一部を取り上げながら、ここで身につける力が自身の生活や将来の場面等において、どのような汎用性をもつか見通すことができるよう課題を設定する（発達段階によっては、単元終末時にリライトすることにより、結びつきを強く自覚させる場合も）。また、各一単位時間の学習課題についても、単元課題との有機的な結びつきを明確にしながら設定することにより、生徒が学びの必要性を維持することができる。「コミュニケーション力」が育まれる場面の前段としての「自己の認識や判断」を自律的に獲得するための手立てである。

（2）自他や他者同士における「言葉による見方・考え方」の比較や統合を促す発問・問い返し・指示（条件提示）～Ⅱ

単元を通じた課題や一単位時間における課題に対し、個々の児童・生徒が「自己の認識や判断」、あるいは小集団学習における立場・役割を得た後に、集団思考（小集団活動の場面を含む）を通して自他や他者同士の意見を比較したり、組み合わせたりしようとすることを促す発問・問い返し・指示（条件提示）等を行う。（1）の手立てにより、他者のもつ言葉の感覚や課題における最適解を求める姿勢は、すでに生まれていると考えられる。したがって、発表や話し合いの意味づけや条件づけをその都度明確にする働きかけを行うことで、能動的な関わり合い（コミュニケーション力の発揮・伸長）が生まれるであろう。丸山（2010）も、「交流活動には、互いの差異とその原因との自覚を促し、それに連動して教材文のことにこだわるといふことばの学びを活性化させるという効果がある」としながらも、「グループの読みが互いに似通っている場合は（中略）交流活動の方向の転換を図る指示を与える、といった教師の働きかけのあり方を今後さらに検討する必要がある」としている。また、課題に対する「立場」やその「根拠」を、児童・生徒の発言によって共通点や相違点等を整理し、解決に向かわせるような発問・問い返しを吟味し、適宜講じる。これにより、「思いや考えを他者と共有」しながら、本時あるいは単元の目標に近づいていくことになると考える。

引用・参考文献

- ・文部科学省 「学習指導要領（平成二十九年告示）解説 国語編」、東洋館出版、2018
- ・水戸部修治 「『協同的学び合い』をつくる言語活動」、明治図書、2012
- ・丸山 範高、坂口智子 「読みの振り返りによって促されることばの学びに関する一考察 - 交流活動を通じた中学生による国語科教材文の読みの軌跡を手がかりとして」、和歌山大学教育学部紀要 人文科学、2010

■本時で目指す児童・生徒の姿

今日の授業における「コミュニケーション力」を高めるためのポイント

「糸をつむぐたぬきの行動」に着目し、なぜそのような行動をとったのか、叙述を基に理由を話し合う活動を通して、「恩返しをしたい」「糸車を回したい」「おかみさんに気にかけてもらいたい」など、たぬきの行動を具体的に想像しながら読む姿。

■本時のポイント

今日の授業における「目指す子供の姿」を実現するための手立て

① 自他や他者同士における「言葉による見方・考え方」の比較や統合を促す発問・問い返し・指示（条件提示）～

Ⅱ

「すきなところを見つける」という単元を通じた課題設定を意識できるようにし、子供たちが本文に引いたサイドラインやノートの記述等から、一人一人の見取りを基にした他者同士を繋ぐ指名計画を生かしていく。具体的には、糸を

たぬきはわなにかかって、怖い思いをしたにもかかわらず、どうしてまた山小屋に来て糸をつむいだのでしょうか。



糸車を回したかったからだと思う。「キーカラカラ キークルクル」と糸車を回すまねをしていたし、毎晩毎晩やってくるぐらい好きだったのだと思うよ。



おかみさんのまねをして、楽しめたかったのではないかな。「おかみさんがしていたとおり」と書いてあるよ。



おかみさんに助けてもらった恩返しをしたかったと思う。前の場面では、わなにかかったたぬきを、おかみさんが助けてくれたよ。



きっと「おかみさん、よろこんでくれるかな。」と思いながら、糸を紡いだと思う。

お礼を言いたいなら（糸を紡いでおくよなど）直接言えばいいのではないですか。



おかみさんが糸をつむぐ様子を見て、真似をしていたから、おかみさんのように上手に糸をつむぐことが、「ありがとう」の気持ちを一番伝えることができると思う。



私の身長よりもっと高いかもしれない「山のよう」に糸を紡ぐことに意味があると思う。おかみさんたちは、冬から春の間、村へ下りていったでしょ。だから、3ヶ月くらい時間があつたから、それだけたくさん紡いだと思うな。



おかみさんに助けてもらったお返しに、冬におかみさんがしていた通りにしてたくさん糸を紡いで、役に立とうとしていたからだよ。